



『明日をひらく寺院創生講座』講師の井出悦郎氏

全国曹洞宗青年会 オンライン研修会
『明日をひらく寺院創生講座』について

全国曹洞宗青年会 庶務 中野孝海なかのこうかい

今期全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）では、「過疎問題への取り組み」を本会事業の一つとして、広報誌『SOUSEI』における連載記事『過疎と向き合う』の掲載だけでなく、過疎化が進む島根県の寺院を巡り、現地の住職や檀信徒の皆さま方からお話を伺うフィールドワークを主催するなど、過疎に対する理解を深めるための活動に取り組んでまいりました。

新型コロナウイルスの流行が続く令和二年度におきましては、一般社団法人「お寺の未来」代表理事である井出悦郎氏を講師としてお招きし、オンライン会議アプリを活用した、全曹青史上初の試みとなる「オンライン上での大規模研修会」を左記の日程において実施いたしました。最大で百一人のご参加があり、延べにすると全五回六日間で三百人以上、また寺族さまや他宗派からも参加をいただきました。

第一回 六月二十五日

「寺院を取り巻く世界と日本の今を知る」



寺院創生講座の様子

第二回 七月二十九日

「お寺の可能性を開くマーケティングを学ぶ」

第三回 九月 一日

「お寺の強みとビジョンを探求する」

第四回 十月 五日

「お寺の持続的財務と組織・会員制度を考える」

第五回

十一月二十六日

「世界に一つの寺院計画書[®]を発表する」(一日目)

十一月二十七日

「世界に一つの事業計画書[®]を発表する」(二日目)

今研修会の最大の目標となるのが、参加者一人ひとりによる『寺院計画書』（寺院の現状分析と今後の具体的な活動方針）の作成です。最終回となる第五回では、有志十二名による計画書の発表が二日間にわたって行われ、全曹青からは会長、副会長を始めとする七名が自ら作成した計画書を発表いたしました。発表内容を端的にご紹介いたします。

・原 知昭 会長

開基家でもある戦国武将将尼子晴久公と、境内地に自生する苔に焦点を当て、「山陰の苔寺」としての知名度を高めるとともに、檀信徒が誇りを持てるよう



●執筆者プロフィール
全国曹洞宗青年会第二十三期庶務
中野孝海
曹洞宗福島県青年会所属



発表の様子

な菩提寺を目指す。

・山田俊哉 副会長

境内に立ち並ぶ樺と山号にもある鶴をお寺の象徴として捉え、お寺の歴史を軸に「過去」「現在」「未来」の繋がりを想像できるような環境を創り上げる。

・織田秀道 副会長

寺院のあり方を見つめなおし、教区・管区寺院とも連携して、檀信徒や地域住民が安心して繋がることのできる「良心的」「先進的」「基本的」なお寺を築く。

・宮本覚道 副会長

行政や地域住民とも協力し、「龍と天狗の伝説があるお寺」として、人々の心の拠り処だけでなく、パワースポットとしても知られるような活気あるお寺を目指す。

過疎問題は、多岐に渡ります。地域や寺院が抱える問題や課題は実に様ざまであり、複雑に絡み合うそれらを一度に解消することは非常に困難です。長い時間がかかるからこそ、一人ひとりが今できることを立案し、実践していくという前向きな姿勢が必要となります。道のりは険しいものかもしれませんが、その想いと行動の積み重ねこそが、明日の寺院を切り開くための礎となるのだと改めて考えさせられました。